

## 連詩からの抜粋歌注釈

### 子供への弔歌

海を返せ、子供たちが未来を見つめるところ、ほかにない。  
絶望の泥で埋めるな、コンクリートを建てるな、路を作るな。  
未来がなくなったその日から、子供という動物は滅んだ

注…子供時代を過ごした袖師ヶ浦は浦安から富津までの途轍もなく長い遠浅の海岸線。その殆どがめ立てられ工業地帯や住宅になった。1965年位を境にあの美しく楽しい遊び場は奪われた。文明の対価が子供の滅亡であれば、ヒトという種族は自殺しつつある。

### やつと革命

てふてふは革命のお訃げじつくり寄り道して来やがった  
無為か有為か知らぬ間、敗残の海峡春めき  
巨像は溶け出し小便みたい

注…金日成の死は革命のよいチャンスだったのではないか。期待して創った。ドイツも東ヨーロッパもロシアも開放されたのに。巨像といえ、レーニンか金日成かフセイン。開放もまた革命、必ず来る。

## インドチャイナ

コロナアルな午後の惰眠

演劇的でさえある近過去の連綿

配役を交換して茶化す猿の惑星

注…日本人にとって最もコロナアルな気分させられるのがインドシナ。でも成り上がりの日本人など猿のような人種にすぎないと見られているという自虐は猿の惑星を連想させる。

## シエンヤンは昔奉天といった

50年も100年も変わらぬ大陸都市のトロリーバスの架線に咲いたタンポポ風に乗れ乗れ花粉の落下傘歴史を空から斜め読みしながら時間をゆっくり遡れ一番何でも知っているのに何の知能も持たない花の遺伝子たちの愉しむ滅び

注…1995年頃のシエンヤンはまだこんな風景があった。父も戦前に住んだというこの大陸都市の歴史を考えながら旅

した。

## 繁栄は生き血の上に

生き血を退屈のキャンバスにぶちまけたNYのモダンアーティストのたうつ切断されたすっぽんの首、首、首、首  
この世のテロルは必ず容赦なき大阪の板前に操られているのだ

注…同時多発テロはこの詩を書いた5年後に起こったことだが、まさかその予知詩になるとは思わなかった。大阪にスッポンの活き造りが美味しい店がある。スッポンに施す所作は己の身にも降り掛かるかも知れない。

## 未来

風、子供に吹け、夢、大きく天を突くぞ  
花、大地を埋めよ、過ぎた、時を購い  
海、淀みなく唱い、この星の塗炭を償え

注…人類は種族保存に関して大きな失敗を犯した。あるいはそのようにプログラミングされているのか。